

# 県土整備部の職場紹介 No.7 沿岸広域振興局土木部



## 地域概要

所管区域は、釜石市、大槌町の1市1町で、ともに三陸復興国立公園のほぼ中央に位置し、四季を通じて温暖な気候に恵まれています。**釜石市**は、「鉄とラグビーのまち」として全国的に知られ、2019年開催のラグビーW杯開催都市の一つとなっています。また**大槌町**は、古くより漁業が町の中心産業であり、なかでも新巻鮭（あらまきざけ）を全国的に広めた地域としても知られています。

両市町とも、東日本大震災津波により甚大な被害を受け、**現在、区画整理事業や防災集団移転促進事業、災害公営住宅整備等の復興まちづくりに取り組んでいます。**

当部では、通常の道路管理及び河川・ダム管理とともに、復興まちづくりと連携しながら、道路整備や防潮堤・水門整備を進めています。

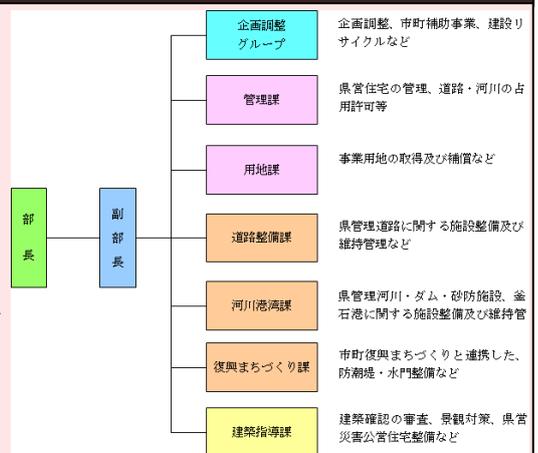
## 組織体制

### ○平成28年度組織キャッチフレーズ

フットワーク・ネットワーク・チームワーク 成し遂げるぞ復興!

### ○組織の特徴

組織は部長、副部長以下6課で構成され、職員数は、**正職員29名**、全国から派遣された**応援職員14名**（東京都6、静岡県6、福岡2）、**任期付職員14名**（秋田県1、茨城県1、栃木県1、東京都1、静岡県1、福岡県1、大阪府1、鹿児島県1、県内6）の**総勢57名**の体制となっています。組織の約半数が他県からの応援・任期付職員ということもあってか、職場はいつも明るく、にぎやかな雰囲気です。



## 今年度の主な取組

### 1. まちづくりと連携した防潮堤・水門整備

河川の河口部及び海岸の背後で進められている、区画整理事業等の復興まちづくりと連携して、防潮堤・水門の整備を進めています。（大槌川水門、小釜川水門、鶴住居川水門、甲子川水門、小白浜水門、片岸海岸防潮堤 計6か所）。

現在、各現場では**施工が本格化**しています。今後は各地域の皆様向けの現場見学会を開催していく予定です。

建設中の鶴住居川水門（H28.8.3）



建設中の片岸海岸防潮堤（H28.8.3）



## 2. 災害公営住宅の整備

東日本大震災津波により住宅を失った被災者の居住の安定を図るため、管内市町と協力しながら、災害公営住宅を整備しています。釜石管内では、**856戸を整備する予定**で、平成27年度までに**397戸(46%)が完成**しています。(H27未迄完成地区 釜石市3地区【平田、野田、日向】大槌町3地区【吉里吉里、屋敷前、柁内】) 今後は、市町が進める区画整理事業等の宅地整備と調整しながら整備を進めていきます。

釜石市 平田地区災害公営住宅 (H26.1完成)



大槌町 屋敷前地区災害公営住宅 (H27.10完成)

## 3. 釜石港の物流機能強化 (ガントリークレーンの導入)

現在、釜石港のコンテナ取扱量は復興事業の影響もあり年々増加しています。今後も三陸沿岸道路、東北横断自動車道釜石秋田線の整備や中国・韓国へのダイレクト船の釜石港への寄港が予定されていることから、釜石港でのコンテナ取扱量が飛躍的に増大することが予想されます。

そのため、荷役の効率性・安全性を向上させるため、ガントリークレーン導入を計画し、今年度から事業着手、平成29年度には稼働する予定です。

ガントリークレーン (イメージ)



## 独自の取組等

### 1. 釜石地区復旧復興工事施工確保対策連絡調整会議

釜石地域における国、県、市町、業界団体等の関係機関・団体が情報を共有し、東日本大震災津波からの復旧・復興工事を円滑に進めるため、釜石地区復旧復興工事施工確保対策連絡調整会議を設置し、当部の復興まちづくり課が事務局としてその運営にあたっています。会議は年に数回開催し、コンクリートや砕石等の資材需給状況や復興事業に関わる様々な情報を共有しています。



平成28年8月8日開催の会議の様子

### 2. 岩手×東京 花のみちプロジェクト

東京都と(公財)東京都道路整備保全公社の支援により、復興支援に対し、感謝を伝え被災地の“いま”を情報発信するため、釜石市内3地区(大渡地区、鈴子地区、箱崎仮設住宅地区)で、花苗を育成し、育成した花苗の一部を、復興支援への感謝を込めて東京都に提供しています。提供した花苗は、東京都庁前花壇への定植会やイベントなどで展示されています。



平成28年6月12日 大渡町内会花苗定植会の様子